

# 農学部園芸班

今月の耕す人は

「耕シ、蒔キ、刈リ、焚キ、  
飼ヒ、養ヒ、紡ギ、織リ、縫ヒ、  
建築シ、作製シ、印刷シ、鑄造シ、  
折リ、売リ、買ヒ、計算スル……  
中ニマコトノ教育ガ体験  
サレルノダト思ヒマス」(小原國芳)  
—— 野に鋤ふるう人ひとを紹介しします。



土を掘り起こし、  
玉川の丘に種をまく

## 耕す人

vol.1



総面積は約4ヘクタール。駅からあるいて30分弱。正門からもっとも離れた里山の大地に、農学部の学内農場が広がっています。

学内農場は、作物を育てる畑(露地、ハウス)、稲作を行う水田、果樹や花苗を栽培する温室がならぶ実習と研究の場。学生は実習で草刈り機の使い方から<sup>ほじょう</sup>施肥、種まき、収穫までを体験しながら圃場管理技術を学びます。

収穫が終わった途端、容赦なく生い茂る草を刈り、つぎの実習に備えて畑を耕すのは、2007年に創設された農学部公認団体「園芸班」の仕事のひとつ。有志学生が月曜から金曜までの授業のない時間(空きコマ)を利用してさまざまな作業に従事しています。

7月上旬、収穫を終えたジャガイモ畑に生産農学科と先端食農学科から4人の学生が集合。エンジン音を炎天下に響かせながら、2人1組となって2台の<sup>こうりんき</sup>耕転機を手押しで動かしていました。

井上広大技術指導員は学生たちの作業を見守りながら、トラクターで種まきがしやすい柔らかい土にしています。

何度も<sup>うね</sup>畝を往復し土を掘り起こすと、収穫で取りこぼしたジャガイモが。「放置はせずに拾い集め、捨てずにおいしくいただきます」と井上技術指導員。なかでも赤褐色でまだら模様が珍しいハート型の“グラウンドベチカ”を「ハートのジャガイモとして売り出せないか学生と相談中」と教えてくれました。

Tamagawa

# "ROSAKU" EDUCATION